

# SHOW HEY シネマール

★★★

## グレース・オブ・ゴッド 告発の時

2019年/フランス映画  
配給：キノフィルムズ/137分

2020 (令和2) 年7月24日鑑賞

東京テアトル

### Data

監督：フランソワ・オゾン  
製作：エリック・アルトメイヤー／  
ニコラ・アルトメイヤー  
出演：メルヴィル・ブポー／ドウ  
ニ・メノーシェ／スワン・ア  
ルロー／エリック・ラカバカ  
／フランソワ・マルトウーレ  
／ベルナール・ベルレー／ジ  
ョジャーヌ・バラスコ／エレ  
ーヌ・バンサン／マルティエ  
ヌ・エレル

### ■ ■ ■ ショートコメント ■ ■ ■

◆ハリウッド映画の『スポットライト 世紀のスcoop』(15年)が、ボストンのゲーガン神父が、30年の間に80人もの児童に性的虐待を加えたという「ゲーガン事件」をテーマとした映画なら、本作はフランスで起きた80人以上もの少年に性的暴力を加えたという、現在でも裁判が進行中の「ブレナ神父事件」をテーマとした映画。また、『スポットライト 世紀のスcoop』が第88回アカデミー賞の作品賞受賞作なら、本作は第69回ベルリン国際映画祭の銀熊賞受賞作だ。

『スポットライト 世紀のスcoop』では、4人の新聞記者と、立場の全く異なる3人の弁護士がテンポ良いスピーディな群集劇を見せてくれた(『シネマ38』48頁)。それに対して、本作の主人公は、被害者団体として結成された「沈黙を破る会」のリーダーとなる①アレクサンドル(メルヴィル・ブポー)、②フランソワ(ドゥニ・メノーシェ)、③エマニュエル(スワン・アルロー)の3人だ。

◆チラシや公式サイトでは、本作のストーリーは次のとおり紹介されている。すなわち、

妻と子供たちと共にリオンに住むアレクサンドルは、幼少期に自分を性的虐待したブレナ神父が、いまだ子供たちに聖書を教えていることを知り、過去の出来事を告発する決意をする。最初は関りを拒んでいたフランソワ、長年一人で傷を抱えてきたエマニュエルら、同じく被害にあった男たちの輪が徐々に広がっていく。しかし、教会側はブレナの罪を認めつつも、責任問題は巧みにかかわそうとする。アレクサンドルたちは沈黙を破った代償——社会や家族との軋轢とも戦わなければならなかった。果たして、彼らが人生をかけた告発のゆくえは——？

◆フランソワ・オゾン監督は、40歳代になっている3人の男たちが、なぜ今立ち上がったのかについて、それぞれ説得力あるストーリーを積み上げていく。ある新聞誌評でのイン

タビューによると、「プロデューサーにこの映画の企画を話したら、『やめて』『コメディをやろうよ』といわれました」と苦笑したそうだが、あまりに生々しいテーマだけに、ターゲットとされたプレナ神父やカトリック教会の反応は？

映画の完成後、予告編を見た渦中の神父が、上映差し止めに求めて訴えたが、メディアが擁護し、司法も公開を認めたようだ。

◆先日、「拉致被害者の会」のメンバーである横田滋さんが87歳で亡くなったが、「森永ヒ素ミルク中毒事件」、「豊田商事事件」をはじめ、「被害者の会」を結成する場合、日本では弁護士主導になるケースが多い。しかし、本作の「沈黙を破る会」は弁護士主導ではなく、被害者とその家族が前面に立った活動を展開しているから、日本の「拉致被害者の会」に近い。また、日本では「被害者の会」の集会は公共の場で開催されるのがほとんどだが、本作では、被害者の自宅に集まったり、妻がその場に参加しているから、なるほどこれがフランス流。また、よく見ていると、会議の運営の仕方も日本とは全く違う、これぞフランス流、ということがよくわかる。

なるほど、なるほど。本作では、そこらあたりもしっかりと。

◆殺人事件の時効は？それがテーマになる映画は多いが、プレナ神父によるボーイスカウトの少年たちへの性的虐待の時効は？3人の主人公たちは40歳代になった今、なぜ10代のボーイスカウト時代の被害を告訴することになったの？

本作のタイトル「グレース・オブ・ゴッド」(神の恩寵)は、プレナ神父の告発を聞いた当時の枢機卿が無神経にも「神の恩寵により時効になっております」と公に発言したことから取られたそうだが、神に仕えるべき教会や枢機卿が時効の援用によって罪を免れようとするのは如何なもの？しかも、それを「グレース・オブ・ゴッド」(神の恩寵)と考えるのは更に如何なもの？

これはいかにもフランソワ・オゾン監督らしい問題提起だが、3人の主人公たちの追及の前にプレナ神父はどのように追いつめられていくの？そしてまた、現実の裁判の展開とその結論は如何に？

2020(令和2)年7月28日記